

信仰を増してください

ルカ 17 章 5-10 節

17:5 使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、

17:6 主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

17:7 あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。

17:8 むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。

17:9 命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。

17:10 あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」(聖書本文引用終り)

17:5-6 使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。

「信仰を増して」とは、信仰を篤く、大きく、深くという意味でしょう。この願いに対するイエスの答えはけっこう厳しいもので、信仰はたくさんあるとかちょっとしかないという話ではない。からし種一粒でも、ほんの少しでも信仰があれば桑の木が動いて海に入る、というものです。つまり信仰はもっともっとという量の問題ではなく、有無（ありなし）の問題だ。それと

同時に、信仰はとてつもない力があるといっています。（*1）

ルカの福音では「桑の木が海に入る」ですが、同じ内容のテキストがマタイ 17:20、マルコ 11:23 では山が海に入るとなっています。山にしる桑の木にしる、どっちにしても常識では考えられないことがおきるのだということを経験としていっています。ところで、山と海ならしっくりきますが、桑と海ではどうしても釣り合いが取れない感じがします。マタイ・マルコのテキストを見てみると、イエスがイチジクの木を呪った話と山が海に入る話がセットになっています。イエスの言葉を伝える過程でイチジクがなまって桑に変わってしまいルカはその伝承を使ったのではないか、という説もあります。

（ギリシア語ではイチジクと桑のの発音が似ている）

さて、続く 7 節からは主人と僕のはなしになります。ここでは僕と訳されていますが、この言葉はほかの箇所では奴隷とも訳されます。ここでイエスは仮にあなたが主人の立場になったらこうなるだろうという話から始めます。

17:7-8 **あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。**

5-6 節の信仰の話と関係なく、ここからは謙遜の勧めを説いているという解釈もありますが、実際にイエスが続けてこの話をしたのかは別にして、ルカ福音書がこの話を桑の話に続けて編集している、記述していることにはなんらかの狙い、意味があるはずで

17:9-10 **命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」**

このようにイエスに解説されるとこのテキストは主人のいうことを聞くよい僕の話です。しかし、これを謙遜の勧め、よい奴隷・しもべの手本の話としてこの話を解釈すればいいのでしょうか。イエスはこんな月並みなことい

ているのでしょうか。

遊び人に絡まれている町娘を通りがかりの浪人が助けました。娘はお礼をしたいといいますが浪人は断ります。せめて名前だけでもとくいさがる娘に浪人は「当たり前のことをしてだけです」といって立ち去りました。

こんなテレビの時代劇の一シーンを見ていてふと思いました。かなり飛躍がありますが、もし桑の木がしゃべれるとして、海に入れと命令した人にたいして「当たり前のことをしてだけ」と返答したとすると、この話 5-6、7-10 節のテキストはつながります。そうすると 7 節冒頭で、もしあなたがたに僕がいるとして、というイエスの前置きが生きてきます。目線をかえるといえますか、僕ではなく主人の立場からものを見たらどうなるか、という伏線です。

うまくできたらつい自慢したがる、訳知りに理屈をいいたくなる、誰でもそんなもんでしょう。それを、自慢しない、さっそうと当たり前ですという態度はなかなかとれません。でも桑の木だったら、よい僕だったら、浪人者だったら、それがいえる。信仰をとおして、そのようなものになることをイエスは使徒たちに、そしてわたしたちにも教えているのではないのでしょうか。

(短い祈り) 自由に用いる

全能の神よ、きょう聞いたみことばを心に深く植え込み、み恵みによって行いの実を結び、み名の栄光をあらわすことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン

* 1 : キリスト信仰では信仰を超能力のように考えません。イエスの祈りだから山が動くのだとは教えません。わたしたちはとかく信仰や祈りを超能力や呪術のように考えがちですがそうではありません。このことは信仰を知るためのポイントの一つです。機会をみつけて、ご自身でよくかんがえてみてください。